45

もっと知りたい 武者小路実篤

地域に残る実篤の足跡

調布

調布ゆかりの偉人として、実篤の元には原稿や書の依頼が多く寄せられました。いくつかをご紹介しましょう。

「調布市の一住民として」

武者小路實篤

調布市の一住民として

今年調布市の満10年のお祝いがある事を知りました。自分が調布市の住人になって満10年になるので、ご祝がありたいと思う訳ですが、全く無関心というわけでもないと言って大声にはりあまいと思う、もっともな話になったのは4月で、僕が来たのは昭和5年の2月で、覚えなくてもいい記事をはっきり覚えているのである。

僕は子供の時から水のある所に住みたいと思っていた。それで友人に水のある所はないかと聞いて案内されたのが、その1年少し前で、一見して気に入り、ここを住事場兼自分の仕事完成の地として選んだわけで、未来の事はわかりませんが、今の処、ここで死ぬつもりでいます。

この10年の間には私の近所もずい分変わりました。家がどの位ふえましたか、1、2年、あないお百姓だと思った処に家が建ちますので、私の家をさがすのに苦労されたと言っています。それは私の住居の前は広々した畑で、私はこの前が人家に変わるとは夢にも思わなかったのですが、この3、4年の内にその畑がすっかり宅地に変わり、もう何軒も家が出来、夜真暗だった処に点々と電燈がつき夜の眺めはすっかり変わりました。…（略）…調布市全体としたらこの発展は大したもので、今後もこの調子で発展してゆくように思われます。…」

昭和40（1965）年『市政要覧～調布市制十周年記念～』より　調布市郷土博物館蔵

調布市制十周年にあたる昭和40（1965）年、実篤にとっても調布市仙川の地に移り住んで10年目にあたる年に、次のような文章を寄せています。

調布消防協働団体機関紙

題字

「調布消防」第100号　平成11（1999）年2月

題字は実篤の字

調布市老人クラブ連合会機関紙

題字

「不老又新」第109号　平成25（2013）年1月

又新とは、さらに新しいの意。